

第 11 回名古屋大学ホームカミングデイ 当日の様子

第 11 回名古屋大学ホームカミングデイが、10月17日（土）、東山キャンパス及び大幸キャンパスにおいて開催されました。前日からの雨の予報とは打って変わり、当日は一日を通して秋晴れとなり、汗ばむ陽気となりました。

ホームカミングデイには、「故郷に帰る」という意味が込められており、同窓生が母校に集うだけでなく、在学生のご家族や教職員 OB、地域の方々も「大家族」として、本学との絆を深めていただくための交流の場として、平成17年から、毎年10月の第3土曜日に開催しています。

今年は、中心部局を工学研究科とし、メインテーマを、文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」に採択された「21世紀、Sustainable な世界を構築するアジアのハブ大学」という構想名から、「Sustainable」というキーワードを用い、「持続可能社会の実現に向けて」としました。

当日の運営は、本部の職員とともに、名大祭本部実行委員会、TEDxNagoyaU 実行委員会及びサッカー部に所属する学生が、来場者への対応、駐車整理などの業務にあたり、各部局においても、職員と学生が行事を運営し、同窓生や在学生の保護者の皆様をお迎えしました。



当日は、4,700 名を超える来場者にお越しいただき、来場者記念品として、ホームカミングデイガイドブック等に入った特製の不織布バッグと、「ミネラルウォーター・名大ラベル」を配付しました。

■学術講演「世界を照らす LED」

10時から、豊田講堂ホールにおいて、未来材料・システム研究所附属未来エレクトロニクス集積研究センターのセンター長である天野浩教授が、「世界を照らす LED」と題して学術講演を行いました。開演前から、入口には、多くの方が並んで列を作り、改めてノーベル賞を受賞された天野教授の人気に驚かされま



した。約 900 名の来場者に、予定座席はほぼ満席となりました。工学研究科社会連携委員会委員長である山田陽滋教授が司会を務め、始めに、新美智秀工学研究科長から、挨拶と天野教授の略歴紹介がありました。その後、天野教授が、昨年のノーベル物理学賞受賞にまつわる貴重なエピソードを中心に、ユーモアを交えながら、約 45 分の講演を行いました。

また、関連企画として、豊田講堂ホワイエでは、工学部・工学研究科の学科等、技術移転候補を紹介するパネル展示のほか、昨年のノーベル物理学賞受賞の写真パネルやデモ機等の展示を行い、多数の方にご覧いただきました。

ノーベル賞関連施設である赤崎記念研究館展示室、2008 ノーベル賞展示室、野依記念物質科学研究館 2 階ケミストリーギャラリーにも、多くの方が来館し、見学をされました。



■名古屋大学の集い

13 時 30 分から、豊田講堂ホールにおいて、卒業後 10 周年、20 周年、30 周年、40 周年、50 周年を迎えられた周年同窓生の皆様を中心に、「名古屋大学の集い」を開催しました。教育学部卒業生の東海テレビ放送の浦口史帆アナウンサーが司会進行を務めました。始めに、松尾総長、豊田章一郎全学同窓会会長から挨拶があり、次いで、伊藤義人全学同窓会代表幹事・ホームカミングディレクターから、全学同窓会の活動報告が行われました。続く「名古屋大学国際交流貢献顕彰」では、名古屋大学全学同窓会ラオス支部のブンフェーン プームマライシット支部長、清華大学（中国）のリン ホン教授、フィリピン大学ロスバニョス校獣医学部のジョセフ サベドロ マサンカイ名誉教授の 3 名に、国際的な取り組みに対する功績を称え、表彰状と記念品が授与されました。



休憩を挟み、引き続き、名古屋フィルハーモニー交響楽団によるコンサートを行いました。理学部卒業生の内藤彰氏を指揮者に迎え、ソリストには、百々あずさ氏をお迎えしました。内藤彰氏は、現在、東京ニューシティー管弦楽団名誉音楽監督・常任指揮者を務め、作曲家の自筆譜に忠実に基づく演奏の再現にこだわられ、ご自身による楽譜の新改訂版を出版する等、精

休憩を挟み、引き続き、名古屋フィルハーモニー交響楽団によるコンサートを行いました。理学部卒業生の内藤彰氏を指揮者に迎え、ソリストには、百々あずさ氏をお迎えしました。内藤彰氏は、現在、東京ニューシティー管弦楽団名誉音楽監督・常任指揮者を務め、作曲家の自筆譜に忠実に基づく演奏の再現にこだわられ、ご自身による楽譜の新改訂版を出版する等、精



力的に活動されています。

また、百々あずさ氏は、愛知県出身のソプラノ歌手であり、現在はベルリンに在住し、ヨーロッパを中心に活躍されていますが、地元愛知県でも度々公演されています。アンコールを含め、全11曲が演奏されました。

■名大生サークルによるミニコンサート



シンポジオンホールでは、名大生サークルのフォルクローレ同好会、アカペラサークルJP-actによるミニコンサートを開催しました。フォルクローレ同好会は、個性豊かな南米アンデス地方の民族楽器を使用し、哀愁漂う独特のメロディを奏でました。JP-actは、馴染みのあるJ-POPの曲を中心に、グループごとに息の合った歌声を披露し、来場者を楽しませ

ていました。

■施設公開「ナショナルイノベーションコンプレックス（NIC）」、女性卒業生向けキャリア支援企画「名大・ママカフェ」

今年3月に完成したナショナルイノベーションコンプレックス（NIC）では、最新の施設を公開し、マイクロ・ナノシステム研究センター、未来社会創造機構、プラズマナノ工学研究センター、組込みシステム研究センター、予防早期医療創成センター、学術研究・産学官連携推進本部の6つの組織の活動紹介及び展示が行われ、約400人の来場者がありました。

また、3階多世代共用スペースでは、男女共同参画室、学生相談総合センター、未来社会創造機構社会イノベーションデザイン学センター、ビジネス人材育成センター（B-jin）の主催で、女性卒業生向けキャリア支援企画「名大・ママカフェ」が開催されました。妊娠中・育休中・育休復帰後の本学卒業の女性同窓生が、仕事と育児の間で抱える悩みを共有し、交流するというテーマの下、先輩ママからの経験談の紹介や、男性からの意見も交えながら、意見交換を行いました。子ども連れで参加できるアットホームな雰囲気も好評で、34名の参加がありました。



■体験企画「あかりんご隊科学実験『入浴剤を作ろう☆』」、「名古屋グランパス・スクールコーチによる親子ふれあいサッカー教室」



「あかりんご隊科学実験」及び「名古屋グランパス・スクールコーチによる親子ふれあいサッカー教室」は、毎年人気の小学生向けの企画です。今年も、募集人数を超える申込みがありました。

本学の理系女子学生で構成される「あかりんご隊」が、子どもたちに実験の楽しさを伝える企画を考え、今年のテーマを『入浴剤を作ろう☆』としました。野依記念学術交流館 1階カフェスペースにおいて、保護者の方に見守られながら、あかりんご隊が実験方法を説明し、子どもたち自身で実験に挑戦しました。重曹とクエン酸を混ぜて作成した手作りの入浴剤は、お土産として持ち帰ることができ、参加した子どもたちは、嬉しそうに持ち帰りました。

陸上競技場では、名古屋グランパス・スクールコーチの指導の下、サッカーの基本プレイを学び、ミニゲーム等を行いました。子どもたちだけでなく、保護者の方の笑い声もたくさん響き、広大な人工芝の上で思い切り身体を動かし、怪我もなく、親子のふれあいを楽しむ様子が見られました。

■見学ツアー「超高压電子顕微鏡施設」、「スーパーコンピュータ」

未来材料・システム研究所による超高压電子顕微鏡施設見学ツアーも、毎年人気の企画であり、今年も300人を超える申込みがありました。参加者は、地面からの高さが10mにもなる「反応科学超高压走査透過電子顕微鏡 JEM-1000KRS」を間近に見ることができ、熱心に説明を聞いていました。



情報基盤センターにおけるスーパーコンピュータの見学ツアーには、200人の来場者がありました。9月に更新披露式が行われたばかりの最新型スーパーコンピュータFX100の一般公開のほか、3Dプリンタで作成した臓器モデルに触れる体験等、様々な最新の情報処理技術を学ぶことができました。

■博物館企画、古川記念館「年代測定装置の見学」

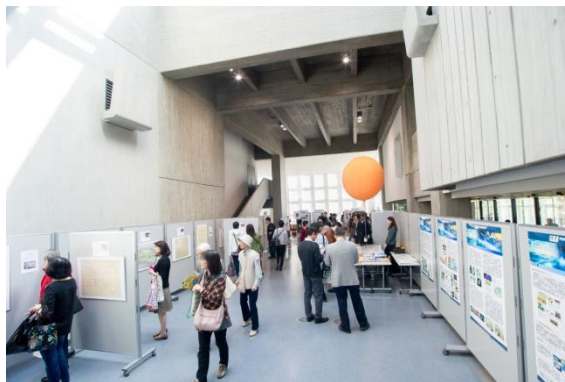
博物館では、常設展のほかに、「博物館収蔵品大公開！動物組織、骨格標本、明治の博物画」、「ミクロの探検隊[®]」の企画が行われました。また、野外観察園では、切り紙作家石川進一朗氏による「ムシの切り紙」の実演が行われました。一枚の紙から、標本と見紛うような非常に精巧な立体のムシを作り出す妙技に、参加者は感心した様子でした。



古川記念館では、年代測定装置の見学が行われ、参加者は興味深そうに説明を聞いていました。

■豊田講堂2階ギャラリー展示企画

豊田講堂2階ギャラリーでは、宇宙地球環境研究所及び未来材料・システム研究所の研究内容の展示、リーディング大学院の活動紹介が行われ、来場者に熱心に説明をするスタッフの姿が見られました。また、大学文書資料室による企画展「地図・図面で見える名大キャンパスの歴史」では、キャンパスでの思い出を懐かしむ同窓生の声が聞かれました。



■販売コーナー

豊田講堂南側ピロティの販売コーナーでは、本のリユース市、農産物の販売、大学生協による名大グッズ等の販売が行われました。毎年販売開始前から行列ができる盛況ぶりである本のリユース市では、学術書等手に入りにくい図書が安価に入手できることもあり、今年も多くの方が本を購入されました。農産物の販売では、フィールド科学教育センターである東郷フィールド内の大地で育てられた新鮮な野菜や果物、お米が販売されました。



大学生協による名大グッズ等の販売では、天野教授の講演終了後に、LEDソーラーライト等のLEDグッズを買い求める方が多くみえました。また、お土産には、名大あめやチョコレート、ゴースト等のお菓子が人気でした。

■その他各学部・研究科主催行事等

各学部・研究科においては、市民公開講座、同窓会関係行事、在学生の保護者向け行事等が企画されました。

多彩な分野の講演タイトルが出揃った市民公開講座等は、現役の教員だけでなく、名誉教授や同窓生を講師にお迎えし、同窓生も一般の方も楽しめる講演内容の工夫が凝らされていました。



また、保護者向け行事では、各学部・研究科ごとに、教育・研究内容の紹介や進路・就職状況について説明があり、保護者からの質疑応答や個別相談も行われました。保護者向け行事に参加いただいた方には、日頃、在学生在が食べている大学生協の食事も試食していただきました。

その他にも、在学生や保護者向けの企画として ES 総合館 1 階会議室で行われた「就サポ OB・OG 座談会～これからのキャリアについて共に考える～」では、本学の OB・OG の就活サポーターと在学生の参加者による座談会が行われました。また、野依記念学術交流館 1 階では、「海外留学プログラム説明会」が行われ、留学に関する本学の取り組みの紹介や個別相談がされました。

参加された多数の方に、楽しい一日を過ごしていただき、ホームカミングデイを通じて、本学との繋がりをより一層深めていただくことができました。